



流れの
先に

鉢花

～うるおい運ぶ木曾川用水～



丸富園芸の河野さん

とみかちょう
岐阜県加茂郡富加町は、岐阜県の中南部、加茂郡の西部に位置し、面積は 16.82 km² で、東部及び南部を美濃加茂市に、西部及び北部を関市に隣接する町です。

富加町が位置する木曾川右岸地区は、木曾川と飛騨川の合流点付近に広がる小盆地状の段丘平野地帯です。両河川に沿っているものの、河川が低地にあり水利施設に乏しい恒常的な水不足地帯でした。しかし木曾川用水（木曾川右岸施設）の完成により、この地区の農業用水は、木曾川用水の白川取水施設より取水され、富加町など 2 市 5 町約 3,390ha の農地を潤せるようになりました。

今回紹介する丸富園芸の河野鉄博さんは、その富加町でハウス栽培（7 棟、約 5000 m²）と露地栽培（約 5000 m²）を行っています。年間を通じて多品種の色鮮やかな鉢花を生産・販売しており、年間生産量は 50 万ポット（鉢）にのぼります。その多くは岐阜花き流通センター（鉢物では全国初の広域出荷場）を介して、北は北海道から南は沖縄まで全国に出荷されています。

その鉢花の生産はスタッフ 15 名で行っており、取材当日（8 月 8 日）も 9 月末から 10 月に出荷する予



チューブホースの状況



スプリンクラーの状況



自動プール灌水システムの状況

定のキク科の花（ガーデンマム、エクセレントマム ピコなど）の生産の最中で、一年の中でもとても忙しい時期でした。

また、丸富園芸さんは水資源機構の新規採用職員を対象とする農家への滞在型体験研修を引き受けて下さり、農作業等の体験を通じて、水利用や農業経営への理解を深める指導をしていただいております。

鉢花生産と水遣り

鉢花生産には水遣りが重要だと河野さんと言います。「水遣りは季節や花の種類によってはもちろんのこと、その日の鉢の状態によっても違い、毎日1回行うものから、週1回で済むものもある。水遣りの方法は、大きな鉢の場合は1鉢ごとに小さなチューブを鉢に直接差し込む方法で行い、小さな鉢の場合は数が多いため、スプリンクラーで散水し水遣りを行います。また、ハウスの中では主に自動プール灌水システム（※写真）といって格子状に溝があるプールにオートメーション方式により、定期的に給排水を行うことで効率よく水遣りができます。」

木曽川右岸用水との関わり

河野さんが鉢花生産を始めた頃は、ハウスは2棟で1鉢ごと手作業で水遣りをしていたそうですが、いろいろ試行錯誤を重ねた努力の結果、現在の効率的な水の遣り方になったとのことでした。

「鉢花などの生産に水は欠かせないものであり、水がなければ生産はできません。川の水や井戸水も利用しているものの、安定して水を供給していただける木曽川右岸用水に頼るところは大きいです。」と河野さんは水の大切さについて話してくれました。

今後の目標

今後の目標については、「さらに効率的に生産を行うため新しい品種にも取り組みたい。また、冬場は気温が低く寒いので露地栽培は難しいが、そうした厳しい状況の中でも露地栽培できる品種を探していきたい。」と語っ

ていました。

また、「丸富園芸ではスタッフ全員が花を通じてお客様の心のゆとりある生活を送っていただけるよう鉢花生産に取り組んでいます。また、販売させていただいた花を『より長く・より美しく』楽しんでいただくため、ホームページなどで管理情報などを紹介しております。」と日頃の思いも添えられました。

(<http://www02.kani.or.jp/~marutomi/>)

9月から10月の鉢花紹介

現在は、キク科の「ガーデンマム」「エクセレントマム ピコ」などの栽培を行っており、9月から10月の出荷に向けてスタッフ一同力を合わせて作業を行っております。

鉢花紹介



ガーデンマム
(キク科・多年草)
9月下旬～10月下旬



エクセレントマム ピコ
(キク科・多年草)
9月上旬～10月中旬



プリンセチア
(トウダイグサ科・多年草)
10月中旬～12月上旬

読者プレゼント

「ガーデンマム(鉢花)」

5名様



今回取材にご協力いただいた「丸富園芸」の河野さんから読者の方5名にプレゼントをいただきました。ご希望の方は、①ご住所、②お名前、③性別、④年齢、⑤電話番号、⑥このコーナーの感想を記載の上、ハガキにて下記までお申し込みください。

■宛先 〒330-6008 さいたま市中央区新都心11番地2 独立行政法人水資源機構広報課 広報誌係

■応募締切 平成25年9月30日(月)(当日消印有効)

※当選者の発表は、プレゼントの発送をもってかえさせていただきます。いただいた個人情報の目的外利用はいたしません。